

卒業生諸兄を送る : 龍南

著者	白膠木
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 5 8
ページ	1 7 7 - 1 7 7
発行年	1915-06-20
その他の言語のタイトル	卒業生諸兄を送る : 竜南
URL	http://hdl.handle.net/2298/6513

龍 南

卒業生諸兄を送る

陽關三疊、最後の一杯の盃を捧げて其底に映つる過去を見、其美酒に浮ぶ未來を想ひ、而して之れを飲み乾して痛快に酔はれよ。銀杏城頭に四時の眞面目なる推移を知り、江津の清流に現實の襤褸を洗うて理想に憧憬れ、空想に耽り、剛を叫び健を讃し、行く所として剛快であつた三年。或は頭に生き心に生き手に動き足に動き坐ろに鬱勃の氣を抱いて己まなかつた三年。今や時と共に永久に去らうとする。諸君低徊去るに忍びざる切々の情が燃ゆるであらう。今更に天地に俯仰して悠久の覺醒を叫ばざるを得ないであらう。さはれ星移り月去ると雖も常緑節を變せず妙籟曲を更めざる不動泰然たる龍田の山に育まれ、滔々たる水勢年と共に其度を加へ進取して極まる所なき彼の聖なる白川の水に養はれし諸君!! 諸君は切瑳自疆の足臺によつて高亭大榭の頂を踏み

遙かに青雲を望んで懸軍萬里の途に上られんとする其意氣や盛と云ふべきである。其行や祝すべしである。然れども雁山や雲烟の中には未だ遠し、輕走遲滯は許すべきでない。龍田の山と共に重くして雍容蒼穹に柱せざるべからず、白川の水と共に邁進し凡てを破つて凡てを築かざるべからずである。諸兄の前途は美はしき小園でもあり得る、又宏大崇高なる大自然の複寫でもあり得る。戰功餘つて之に酔ふか、將た又氣宇八紘を呑んでなほ飽き足らぬか、一つに諸兄の靈手の中にある。其手を洗うて此盃を捧げ深く思うて強く飲まれよ。此酒の甘きは諸兄の前途を祝して己まぬ心である。

敢へて潜越の冗辞を呈して賢明なる諸兄の清眼を煩はすこと斯の如しであるが希くば此心を諒として行く。自重自愛せられんことを。

青い葉の端々しい香を吸ひながら (白膠木)

校旗問題

(二)

眞 破 生

校友會として其會員に事に應じて相當の制裁を加